

株式会社インタラクティブィ 番組審議委員会議事録

1. 開催日時： 平成 28 年 12 月 2 日（金） 10 時 00 分～11 時 30 分
2. 開催場所： 株式会社ジュピターテレコム会議室 3 階新 Room6 会議室
3. 委員の出席：

委員総数： 7 名

出席委員数： 5 名

出席委員の氏名：

（敬称略、五十音順）

大宅映子、音好宏、砂川浩慶、諸星裕、吉岡忍

放送事業者側出席者：

株式会社インタラクティブィ

代表取締役社長 長谷一郎

株式会社スーパーネットワーク <ヒストリーチャンネル>

ゼネラル・マネージャー エージア・アイアトン

編成制作部副部長 上高原 亮

ジュピターエンタテインメント株式会社 <女性チャンネル♪LaLaTV>

代表取締役社長 寺嶋 博礼

編成制作副部長 小嶋 俊博

編成制作部 廣田 結子

事務局：

株式会社ジュピターテレコム

DTH 営業部 平本善一、細江央輝、黒沢瑞穂、森井健策、田口聖美

4. 議題

株式会社インタラクティブィで放送する 6 チャンネルの内、「ヒストリーチャンネル」、
「女性チャンネル♪LaLaTV」の番組内容、編成内容について。

5. 審議内容

①「ヒストリーチャンネル」の編成及びオリジナル番組『バーバリアンズ・ライジング～ローマ帝国に反逆した戦士たち～ #1』について、各委員より以下のような意見・質問がなされた。

- ・歴史の経緯を知らないと理解するのは難しいドラマだった。ローマ帝国の歴史がわかる番組などが合わせて編成されていると、ドラマに入っていくやすいと感じた。
- ・国際共同制作だということだが、日本はどのような規模で参加しているのか。
- ・いかにもアメリカっぽい、スペクタクルな作品。エキストラだけでも相当お金がかかっている。大したことをやっているとは思ったが、“歴史観”としては、そう新しいものではなかった。
- ・アメリカの定番の歴史ドラマは、権力を人間化して見せる。分かりやすい“人間らしさ”が実にアメリカらしく、大味になってしまっていると感じた。権力ってこんな風に見られるのかと新たな発見はなかったように感じる。
- ・ドラマの最中に、空軍やビジネスマン、政治家がその情景を解説する、日本ではまず見られない作り方が面白いと思った。
- ・全8話ということだが、他の7話もこれ全てが作戦の話になるのかなと感じてしまった。
- ・ドラマ性を高めるためとはいえ、画面が暗すぎる。ストーリーが重たい故にしんどかった。
- ・戦争の中で巻き起こる人間と人間がぶつかりあうところを見せるのがドラマの醍醐味。戦略ばかりでは、完全に男向けの話になってしまう。
- ・戦争は男の視点で描かれているものが多い。一方で、女性もその戦争の中を生きていた。その視点は変わってくる。この戦争で何が変わったのかということを知るためには、もっと広い視点でみないといけない。製作者の見方の狭さは、21世紀になってもこんなのかと思い知らされてしまった。
- ・映像としては面白いが、これでは一過性。歴史の専門チャンネルだったら、歴史観をも揺るがすような追及をしてもらいたい。
- ・オリジナル番組は、戦国時代の題材が多いが、日本の近現代史をヒストリーチャンネルでやるということも大事なことだと思う。そういったところまで射程距離にいれてオリジナル番組を制作いただきたい。その歴史を保存していくことは、とても価値のあること。様々な角度からやっていただけたらヒストリーチャンネルは本物だと思う。

<事業者回答>

- ・15カ国が出資している。アメリカが出資額としては多い。また、国際共同制作でも、『ザ・ワールド・ウォーズ』のように、世界大戦を題材としたときは、専門家も入って歴史的背景を意見したりなどするのですが、今回は舞台がヨーロッパということもあって、あまり日本は入っていない。
- ・時代と場所が変わるにつれて、人も変わっていき、800年にわたってローマを滅ぼしていくというストーリーになっていく。

②「女性チャンネル♪LaLaTV」の編成及びオリジナル番組『メンズキッチン ラスベガス特別編』について、各委員より以下のような意見・質問がなされた。

- ・若いイケメンが2人とも素直で、わざとらしくなかった。「ラスベガス初めてで嬉しい」とか「グランドキャニオン遠い」などリアルなコメントが良かった。
- ・旅をしながら料理をどうゆうふうにして位置づけるのかっていうのは、難しいと思ったが、場所ならではの料理でうまくまとまっていた。
- ・スペシャル版でこれだけやってしまうと、スタジオに戻ってきたときの変化の付け方は難しいのでは。
- ・あの時はこうだったみたいに、若い人がラスベガスの思い出話されてもムツとするだけだし、リアリティがない。出演者たちが「初めて行く」というのが良かった。
- ・ただの旅番組だけではなく、料理を織り交ぜてというのが面白かった。料理も手が込んでなく、実際に食べる簡単なものをチョイスして、おしゃべりしながらやるという軽さは、番組のテイストとしてはとても良かった。
- ・4Kを売りにしようとしたのは、あの夜景でありありとわかったが、噴水やボルケーノは、やはり綺麗だった。
- ・2人とのキャラも大切だし、自然体で良かったが、製作者側が「このポイントは押さえておいてください」とか囁いておいたほうが、会話が浅すぎる危険性は無くなると思う。
- ・素人の女の子の暮らしを追うドキュメンタリーを以前放送していましたよね。チャンネルの編成で、タレントでなく素人を映す番組もあったほうが時代の空気感が感じられるのではないかと。例えば5分番組など、あまり重く考えないでやったほうが良いものができるのでは。
- ・SNSはどのように使っている？ターゲットからすると、SNSは親和性があるのではないかと。
- ・若い方ばかりではなく、年配の人をターゲットにしては？おばあちゃんの知恵袋みたいなものがあったらいいのではないかと。巣鴨とか関西をうまく絡ませても面白いと思う。
- ・女性のチャンネルとして、女性の裏の面も取り上げてみてはどうか。

<事業者回答>

- ・「メンズキッチン」は、台湾・スペイン・シンガポール・博多などの出張版や、スタジオにゲストを呼んだり変化をつけている。今後は、著名なゲストも登場する。
- ・ツイッターやFacebookとか、番組情報を載せたりしているが、実際の視聴者とのギャップがある。それをどう埋めて行けるかが課題。今は、オリジナル番組やイベントで活用している。
- ・シニア層をターゲットにした「瀬戸内寂聴さんの特集」も1月に用意している。宮沢りえさんや満島ひかりさんが主演の映画や人生相談番組まで並べて、若い方からシニアの方まで見ていただける特集になっている。また、女性のダークサイドに関しても、特集を検討している。いろいろなことにチャレンジしながら、やっていきたい。

以上